

赤とんぼ

作詞：三木露風
作曲：山田耕筰

- 一、夕焼け小焼けの 赤とんぼ 負われて見たのは いつの日か
- 二、山の畑の 桑の実を 小籠に摘んだは まぼろしか
- 三、十五で姐やは 嫁に行き お里のたよりも 絶えはてた
- 四、夕焼け小焼けの 赤とんぼ とまっているよ 竿の先

～ご参加の皆さまへ お願い～

- ・市内探訪では、集合から解散まで統一行動となっています。
- ・歩行中は一列又は二列で歩き、道路横断時などは交通安全に十分気を付けていただき、急坂、石段などでは足元にご注意ください。
- ・果樹や野菜、植物などを採取しないでください。
- ・地元の方々のご理解・ご協力をいただき、神社や寺院などに伺いますので、失礼のないようにお願いします。
- ・ゴミは、各自お持ち帰りください。
- ・記録写真を撮る場合がありますので、ご了承ください。

ご挨拶

私たち市民解説員は、ふるさと“あきる野”を愛し、地域の自然・歴史・文化の再発見に努めるとともに、これらを市民の皆さまに紹介し、まちづくりと生涯学習の推進を図る学習ボランティアです。

あきる野市は、自然や遺跡、文化財の宝庫です。

この美しく恵まれた環境のもとで、地域の皆さまと一緒に学びあい、活動できることをうれしく思っています。

今後ともよろしくお願いいたします。

◆JR五日市線秋川駅の発車時刻ご案内

	発 車 時 刻		
立川・拝島方面	12:18	12:48	13:18
武蔵五日市方面	12:18	12:48	13:18



東京文化財ウィーク2022・あきる野市参加企画事業

市民解説員が案内する市内探訪

秋深まる伝説と古刹の里 ～鎌倉殿こぼれ話を訪ねて～



宝蔵寺 観音堂（尾崎観音）

令和4年11月11日（金）

あきる野市中央公民館

市内探訪コースのご案内

J R 秋川駅⇒（路線バス）菅瀬橋バス停⇒庚申塔⇒道祖神・馬頭観音⇒
福泉寺⇒御判塚⇒若宮八幡小祠⇒西多摩霊園⇒兄弟塚⇒宝蔵寺⇒
瀬戸岡古墳群⇒J R 秋川駅

担当市民解説員 石崎 健 土居 秀夫 戸田 正法 内田 廉平

【路傍の三尊】

菅生 6 2 6 番地付近

道端の神様とも言われて親しまれてきた庚申塔、道祖神、馬頭観音。今日ご紹介する三尊の石塔には夫々次の文字が刻まれています。205年前と一番古い道祖神には「武蔵 多摩郡菅生村 道祖神 維時文化十二年乙亥天九月吉日」と、178年前の庚申塔には「天保十三年寅十一月吉日 庚申塔 寒念佛講中 武州多摩郡下菅生邑」とあり、その2年後の馬頭観音には「天保十五年辰十一月吉日 馬頭観世音 世話人 政左口門」と彫られています。

馬頭観音が建てられた時代は江戸で遠山の金さん事、遠山左衛門尉が町奉行として活躍していて、日本近海にはアメリカ、イギリス、フランスなどの船が姿を見せ、20数年後には明治を迎えました。

【金谷山 福泉寺】

菅生 6 2 9 番地

宗派：臨済宗建長寺派 広徳寺末寺

本尊：釈迦牟尼如来坐像

創建：永禄4年(1561)と伝わる。

開山：沢翁潤禅師、一説に教外玄授和尚

見どころ：①あきる野市唯一の画像板碑(高さ79cm、幅43cm)
作成年代不明、市指定有形民俗文化財(昭和57年11月3日)。

②素焼きの禅師僧像(堂内に安置)

当寺四世住職白了和尚像と伝わる。素焼きは都内でも珍しい。

③境内の銀杏の木

御岳山と高尾山を往復した天狗が休んだ、という昔話が伝わる。



【御判塚】

「鎌倉道」の一里塚で、大きな榎があったと伝わる。江戸時代、菅生村は天領で、ここは高札場になっていた。掲示されるくお触書に役所の押印があったため、御判塚と呼ばれた。

街道または街道沿いにある塚は何らかの伝承があるものが多く、この塚も不慮の死によって埋葬された人骨が出てきた、という言い伝えがある。

菅生 7 3 0 番地



【若宮八幡小祠】

菅生 7 0 9 番地付近

菅生の土豪菅生太郎が、鎌倉・鶴岡八幡宮を勧請したと伝えられる。『新編武蔵風土記稿』によると、「若宮八幡社 除地 185坪 小名若宮ヶ谷戸にあり、小社上屋八尺に一丈、東向、村民の持ちなり」とある。

伝承によれば若宮八幡を守っていた家が六軒あって「若宮」と呼ばれていたことが、いつからか地名になったと云う。



【西多摩霊園】

丘陵地を造成して昭和41年に開園した民営公園墓地で、敷地面積50万平方m(約15万坪)、総区画数約3万区画と都内最大の規模を誇る。山田耕柞、松田優作、ヒデとロザンナのヒデなどの著名人も眠っている。

園内には山田耕柞胸像、童謡「赤とんぼ」歌碑が立つ。

また、当地の豪族菅生一族(武蔵七党の横山党に属す)の館が当園敷地内にあったと伝わる。

菅生 7 1 6 番地



【兄弟塚(スツテクリョウ)】

当地の豪族菅生太郎経孝の息子、菅生太郎有孝・小倉次郎経久兄弟の墓と伝わる。

兄有孝の留守中に弟経久が兄の愛馬を田圃の代掻きに貸したことに端を発した兄弟喧嘩で共に相果てた二人を村人がこの地に葬ったものである。

この塚には、ここを人が通ると「スツテクリョウ」という声が聞こえたことから、墓のある場所を『スツテクリョウ』と呼ぶようになった、などの伝承がある。

菅生 6 7 8 番地付近



【光雲山 宝蔵寺】

宗派：曹洞宗永平寺派 宝光寺(平井)末寺

本尊：木像薬師如来坐像

創建：正治元年(1199)

開山：宝光寺五世泰翁慶初大和尚

見どころ：①観音堂(通称、<尾崎観音>)

本尊：秘仏「如意輪観音」(高さ約5.5cm木造)

創建：宝暦11年(1761)

縁起：西側の観音山にあった「観音堂」を昭和3年、当地に移設。

その他：明治22年(1889)、草花・菅生・瀬戸岡・原小宮・平井5ヶ村による「連合村」の「村役場」が置かれた。大正10年(1921)、多西村の誕生により、村役場は陽向寺(草花)に移された。

菅生 2 6 3 番地



【大西政十重久墓碑】

宝蔵寺墓地内

大西政十重久は大西忠兵衛の子として、文政10年(1827)菅生村尾崎に生まれる。若いころ約1里離れた多摩郡戸吹村の天然理心流松崎和多五郎に入門し、明治5年(1872)1月、45歳で指南免許。

文久元年(1864)から明治39年(1906)の46年間に門人数199名を数える。特に日向延岡藩の家来67名が元治元年に一度に入門する。

明治になり廃藩置県が行われると、郷里に帰って道場を開き剣術を教えた。現在も政十が教えた棒術が小宮神社、尾崎観音などの獅子舞の奉納のなかに残っている。

【瀬戸岡古墳群】

瀬戸岡 7 9 1 番地周辺

古墳時代の終末期、7世紀中頃から8世紀前半頃にかけて築かれたと考えられている古墳群である。秋留台地の北縁部、平井川を見下ろす台地上の東西、南北共に350mの範囲内に50基の古墳がまとまって分布している。

大正15年(1926)瀬戸岡地区青年団によって行われた第1回発掘調査の結果、東京府の旧跡に指定(大正15年5月)され、その後、平成18年3月16日に史跡に種別変更された。また、昭和63年1月9日には、古墳分布域が瀬戸岡歴史環境保全地域(全域民有地)に指定されている。

なお、第7号古墳(あきる野市所有)は、石室が露出保存され、古墳の石組みを直接見ることが出来る。

参考文献

秋川市史 秋川市地名考 新編武蔵風土記稿 武蔵名所図会 無漏西游
あきる野市の石造物 秋川市ふるさとの道 ほか